平成２２年度　第１回

大阪府・大阪市経済動向報告会

第１部：最近の大阪経済の動向　資料

『大阪経済の自律回復への道のりはいかに』

平成22年5月14日

財団法人大阪市都市型産業振興センター
経済調査室長　徳田 裕平

【本日の話題】

☆ この2年半の景気認識を振り返る

☆ 景気動向データが語るトレンドから読み取る

☆ 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する

☆ 不況脱却の足取りを検証する

1

■■1　この2年半の景気動向を振り返る

各種機関での業況総括判断推移の比較

年月	【国（内閣府）】	【近畿（日銀大阪支店）】	【大阪市】	【経済調査室のフェーズ】	年月
07年10月	このところ一部に弱さが見られるものの、回復している	緩やかに拡大している	「年末需要で業況は盛り返すも、『踊り場』の様相が強まる」	〈フェーズⅠ〉 金融バブル崩壊の兆候現れるも大事に至らない潜伏期	07年10月
11月					11月
12月	一部に弱さが見られるものの、回復している				12月
08年 1月			「経済環境急変に伴う新たな均衡へ向けた調整過程が進行」 ・異次元の世界へワープするトンネルに突入		08年 1月
2月	このところ回復が緩やかになっている				2月
3月	景気回復は、このところ足踏み状態にある			〈フェーズⅡ〉 金融バブル崩壊が露呈し、投機マネーが世界を闊歩した激震期	3月
4月					4月
5月		一部に減速の動きがみられるが、基調としては緩やかに拡大している	「コストプッシュにより一部の企業で価格転嫁が進展」		5月
6月	景気回復は足踏み状態にあるが、このところ一部に弱い動きがみられる				6月
7月					7月
8月	このところ、弱含んでいる	減速している	「内外需の弱さと原油価格の反落で方向感が定まらない不安定状態」		8月
9月					9月
10月	弱まっている	停滞している	「需要の急激な縮退により大企業中心に業況等が急降下」 エアポケット的に	〈フェーズⅢ〉 外需依存型の日本の実体経済が急縮し、製造業が疲弊した最悪期	10月
11月	弱まっている。・・・下押し圧力が急速に高まっている	停滞している			11月
12月	悪化している	停滞色を強めている			12月
09年 1月	急速に悪化している	悪化している	「景気悪化は業種・規模を問わず急拡大」 ・総崩れ		09年 1月
2月	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある	大幅に悪化している			2月
3月					3月
4月					4月
5月	厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになっている	大幅に悪化しており、厳しい状況にある	「景気は底入れの兆候が見られるものの、依然厳しい水準」	〈フェーズⅣ〉 緊急経済対策の効果が徐々に現れるも、展望が不透明な底入れ期	5月
6月	厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるが、悪化のテンポは和らいできている			6月
7月	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある	「景気は下げ止まりつつあるものの、なお厳しい水準」		7月
8月					8月
9月	失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	なお厳しい状況にあるが、下げ止まっている			9月
10月	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる	「景気は持ち直しの動きに向けて足踏みとなり、予断を許さない状況」		10月
11月					11月
12月		雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している			12月
10年 1月			「景気は再び持ち直しの動きとなり、緩やかに改善へ」	〈フェーズⅤ〉 新興国の外需が牽引しつつ、ＥＣＯ主導自律回復ステージの整明期	10年 1月
2月					2月
3月	景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある	雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している			3月
4月		雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している			4月

(財)大阪市都市型産業振興センター　経済調査室　作成

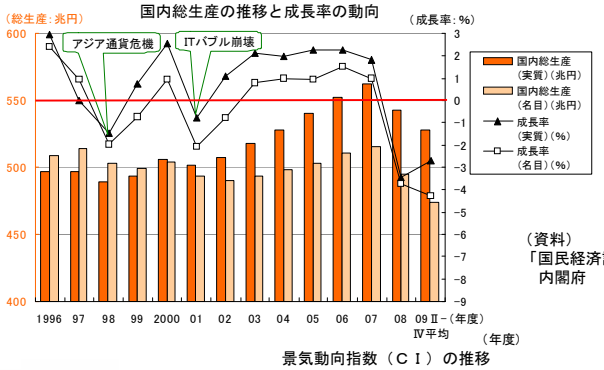
2

■■2　景気動向データが語るトレンドから読み取る

（１）2007年度までは本当に経済は成長していたのか？

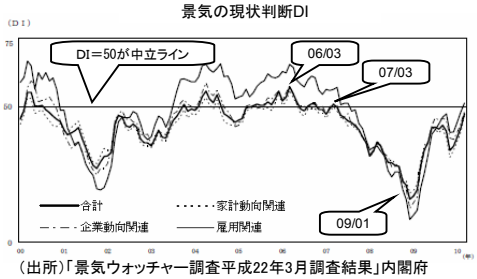
実質経済成長率は本当に正しい見方なのか？

国内総生産の推移と成長率の動向



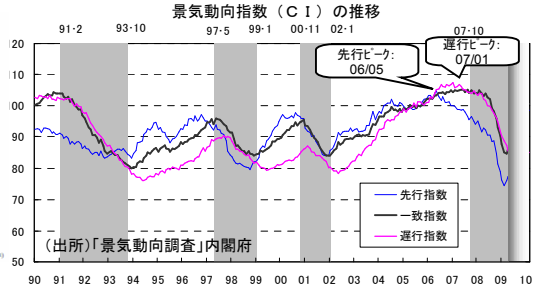
（資料）
「国民経済計算」
内閣府

景気の現状判断DI



（出所）「景気ウォッチャー調査平成22年3月調査結果」内閣府

景気動向指数（ＣＩ）の推移



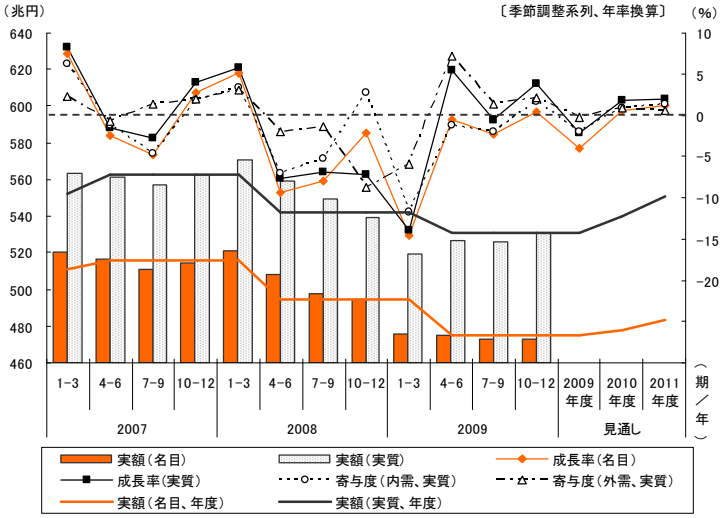
（出所）「景気動向調査」内閣府

(財)大阪市都市型産業振興センター　経済調査室　作成

3

■■2　景気動向データが語るトレンドから読み取る

（２）国内総生産など経済指標の動向と見通し

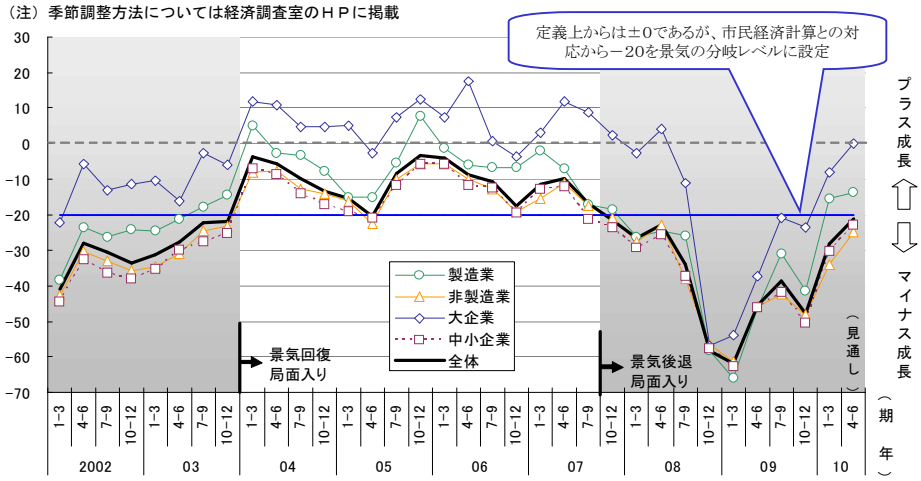


注: 2008 年度以前の四半期値は原系列確報をもとに、速報の季節調整系列/ 原系列の各四半期平均を乗じた推計値を使用。
資料: 内閣府「国民経済計算」、09～11 年度の見通しは、実質成長率に関しては日銀「経済・物価情勢の展望（2010年4月）」、その他は（社)経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」2010年4月発表資料

■■2　景気動向データが語るトレンドから読み取る

（３）季節調整後の対前期比景況判断

（注）季節調整方法については経済調査室のＨＰに掲載

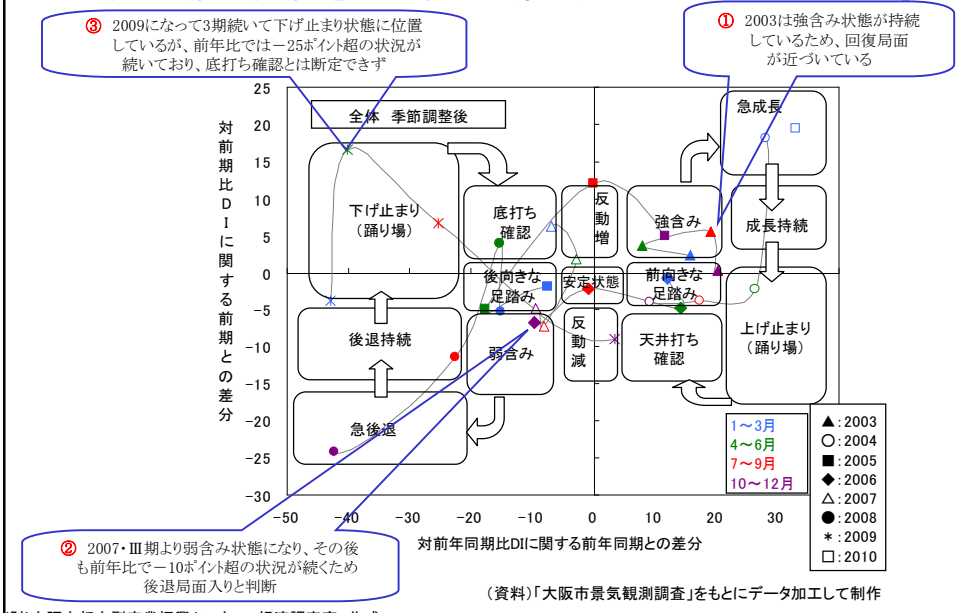


大阪市成長率（名目）	−1.5%	−0.1%	−0.8%	+0.2%	+0.7%	+0.3%

（資料）「大阪市景気観測調査」

■■2　景気動向データが語るトレンドから読み取る

（４）前年同期比と前期比を組み合わせた「景気動向クロス判定による現状評価」



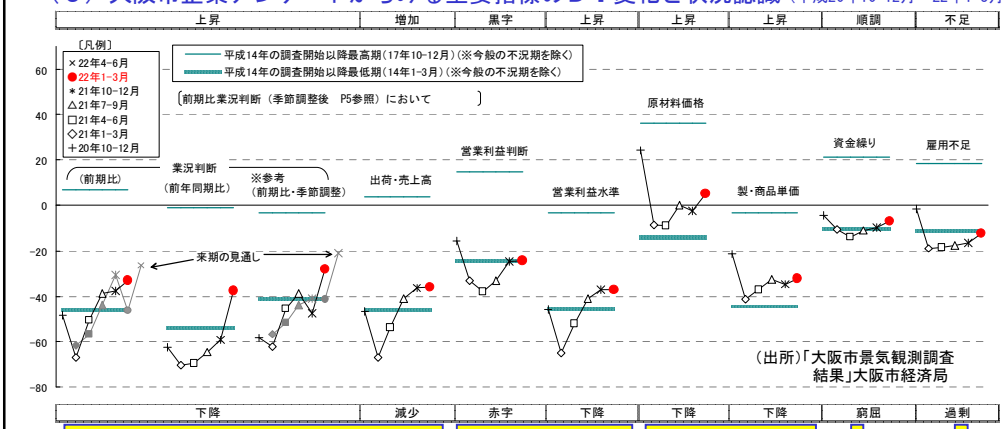
（資料）「大阪市景気観測調査」をもとにデータ加工して制作

(財)大阪市都市型産業振興センター　経済調査室　作成

6

■■2　景気動向データが語るトレンドから読み取る

（５）大阪市企業アンケートからみる主要指標のＤＩ変化と状況認識（平成20年10-12月～22年1-3月）



フロー的 VS ストック的

業況は回復基調にあるものの、出荷・売上高の回復には直結しておらず低調

原材料価格は再び増勢を強めつつあるが、受注獲得に向けて単価への価格転嫁を実施しにくい環境

利幅の少ない単価を余儀なくされ、営業利益面では赤字脱却が容易ならず

融資返済が回りだして資金繰り改善が徐々に進展し始めている

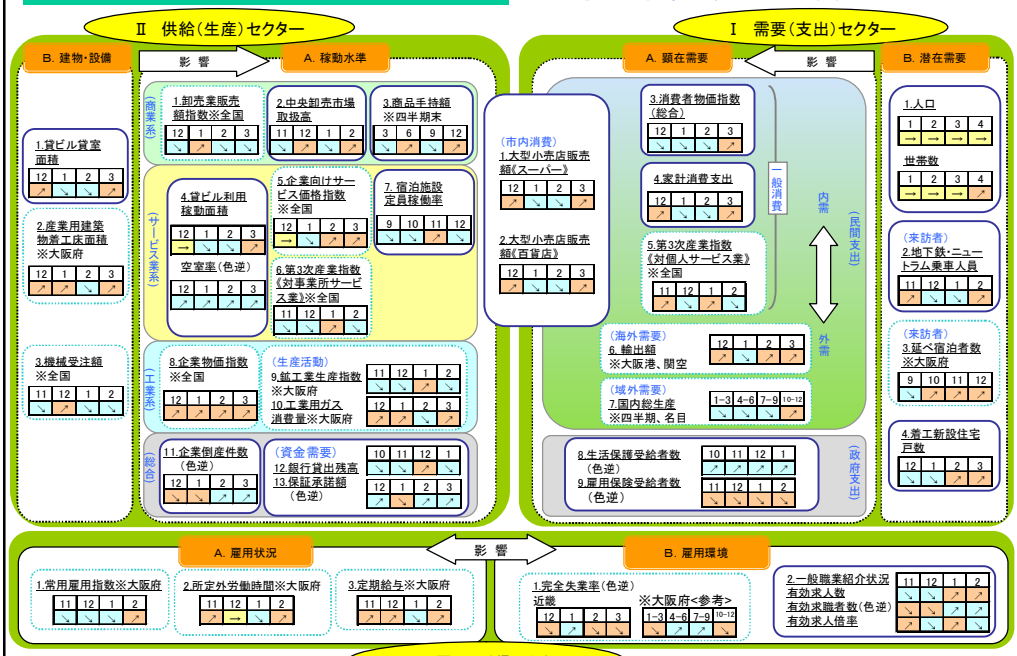
業況回復により雇用過剰感は徐々に緩和され人員調整が前進

（資料）「大阪市景気観測調査」をもとにコメントを追加

(財)大阪市都市型産業振興センター　経済調査室　作成

7

■■3 月次オーダーで大阪経済を俯瞰する （１） 毎月の指標で見る大阪市経済 （2010年4月より）

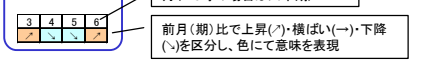


(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

※凡例と図の見方は次ページ

8

凡例



■矢印の見方

- ↗ 前月（期）と比較して増加
- → 前月（期）と比較して横ばい※0.05%未満の変化
- ↘ 前月（期）と比較して減少

■色の見方

- 景況にプラスの方向
- 景況に変化なし
- 景況にマイナスの方向

◎ただし、以下の7つの指標については矢印と色の対応が逆になっている。
生活保護受給者数、雇用保険受給者数、貸ビル利用空室率、
企業倒産件数、保証承諾額、完全失業率、有効求職者数

逆になっている指標は、「（色逆）」で示している。
表記なしの場合 ↗ ↘ （色逆）の場合 ↘ ↗

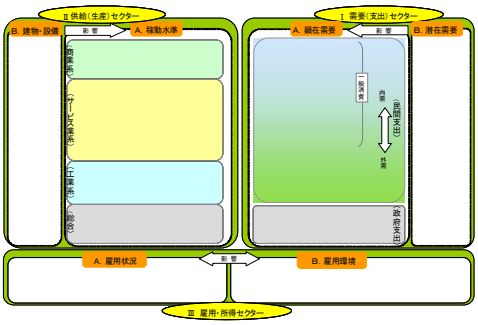
■大阪市とそれ以外の指標

指標はなるべく大阪市の範囲に近いものを優先して掲載しているが、大阪市の指標がないものは、大阪府、近畿、全国などの広範囲の指標も代用している。

◇大阪市の指標（枠は実線）
例＞ 4.家計消費支出

◇大阪市より広域の指標（枠は破線）
例＞ 5.第3次産業指数《対個人サービス業》※全国

図の見方



■直近4ヶ月の大阪市経済の変化を読む

図では、経済情勢を俯瞰するために、Ⅰ需要（支出）、Ⅱ供給（生産）、Ⅲ雇用・所得の3つのセクターに分けて整理した。

Ⅰ 需要（支出）セクター

A.顕在需要は、一般消費（小売・サービス等最終消費者向け）等や輸出等の需要を中心とした**民間支出**と、大阪市等による**政府支出**によって需要の動向を表す。

B.潜在需要は顕在需要に影響を与える数字を表す。

Ⅱ 供給（生産）セクター

A.稼動水準は、卸を中心とした**商業系**、事業所を対象とするサービスを提供する**サービス業系**、製造業を中心とした生産活動を行う**工業系**、倒産件数や資金需要など産業活動を総合的に捉えた**総合**の4分類で、供給の動向を表す。

B.建物・設備は、各産業活動の稼動水準に影響を与える建物・設備等の状況を表す。

Ⅲ 雇用・所得セクター

A. 雇用状況は、雇用者サイドから、**B.雇用環境**は被雇用者サイドから、雇用・所得の状況を表す。

(財)大阪市都市型産業振興センター 経済調査室 作成

9

■■3　月次オーダーで大阪経済を俯瞰する　（２）大阪市経済の動向（2010年4月）

１月：一般消費や設備・住宅投資などでは弱含みにあるも、景気は全般に持ち直し基調を持続
２月：雇用・消費は時節柄弱いが、設備や工業関連が主導し、景気持ち直し基調は持続
３月：季節的に消費の動きは弱いが、引き続き工業系が牽引し、景気は持ち直し基調を持続

４月：供給面で様々な動きを示す一方、需要面と雇用面で明るい兆候、景気は持ち直し基調を持続

需要面は、一般消費が例年の販売低迷期明けや7ヶ月ぶりの消費者物価上昇により、大型小売店販売、家計消費ともに増加したものの、依然、前年同月をやや下回る水準。輸出は大阪港・関空とも増加し、特に大阪港が堅調。供給面では、商業系は総じて低調で、サービス業系も回復基調の確たる様子は見あたらない。他方、工業系の持ち直しは緩やかながらも持続しており、建物では大型プロジェクトが着工するなど、供給面では分野毎に様々。雇用面では、府の常用雇用や所定外労働等が増加し、近畿の失業率も僅かに低下するなど明るい兆候がある一方で、市の有効求人倍率は下降。求職需要を賄えるまでには至らない状況。

Ⅱ　供給（生産）セクター

【A. 稼動水準】
- ✧**商業系**　全国の卸売業販売額指数(3月)は、2ヶ月連続して多くの業種で下降。
- ✧**サービス業系**　貸ビル稼動面積(3月)は微増に転じ、空室率(3月)の連続上昇は一服。全国の企業向けサービス価格指数(3月)は短期型業種を中心に先月に引き続き小幅上昇。ただし、総じて言えばサービス業の回復には確たるものがまだ見られない。
- ✧**工業系**　原材料・素材系が上昇し全国の企業物価指数(3月)は4ヶ月連続で僅かに上昇。大阪府の鉱工業生産指数(2月)は僅かに下降するも、工業用ガス消費量（3月）が小幅上昇となり、総じて工業系の持ち直しは緩やかながらも持続。
- ✧**総合**　期末期のため、倒産件数（3月）は増加し、保証承諾額・件数（3月）もともに大幅増。

【B. 建物・設備】
貸室面積（3月）は再び増加し、大阪府の産業用建築物着工床面積(3月)は、業務・商業系の大型プロジェクトが着工し大幅増。全国の機械受注額(2月)は非製造業を中心に減少。

Ⅰ　需要（支出）セクター

【A. 顕在需要】
- ✧**一般消費**　大型小売店販売、家計消費ともに増加したものの、依然、前年同月をやや下回る水準。消費者物価(3月)は7ヶ月ぶりに上昇。
- ✧**輸出等の外需**　輸出額（3月）は大阪港・関空ともに増加、大阪港は2割以上の大幅増。
- ✧**政府支出**　生活保護受給者数（1月）は上昇を継続、雇用保険受給者数（2月）は減少、ただし初回受給者数は増加。

【B. 潜在需要】
年度替わりの時期で、人口・世帯数(3月)は増加。着工新設住宅戸数(3月)は大幅増加。

Ⅲ　雇用・所得セクター

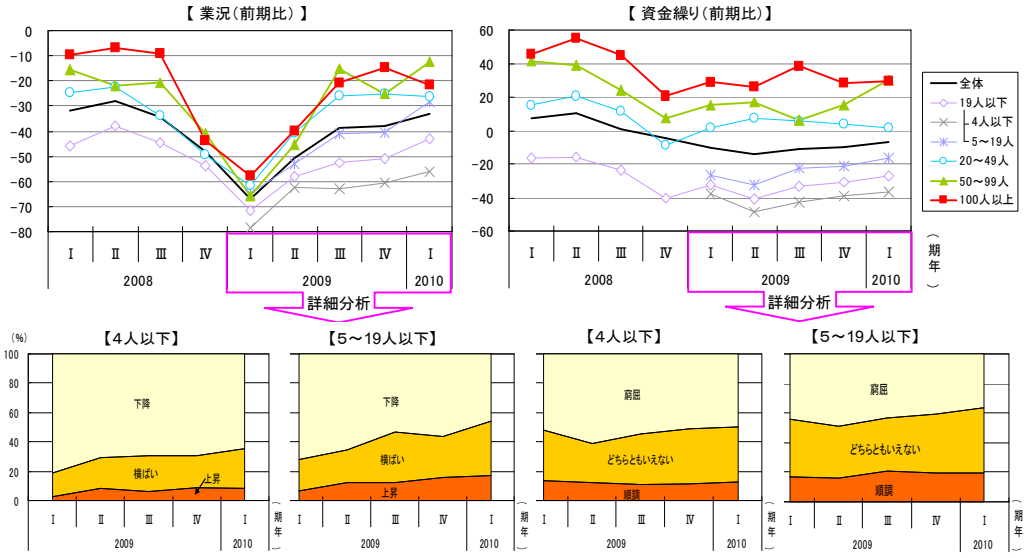
【A. 雇用状況】　大阪府の常用雇用指数(2月)は7ヶ月ぶりに僅かに上昇し、所定外労働時間、所定内給与・超過給与(2月)ともに増加するなど明るさが見え始めた。

【B. 雇用環境】　近畿の完全失業率(3月)は2ヶ月連続で僅かながら改善。他方、市の有効求人倍率(2月)は求職者数の増加が影響して低下し、上昇に向けては求人需要の盛り上がりが弱い。

■■4　不況脱却の足取りを検証する

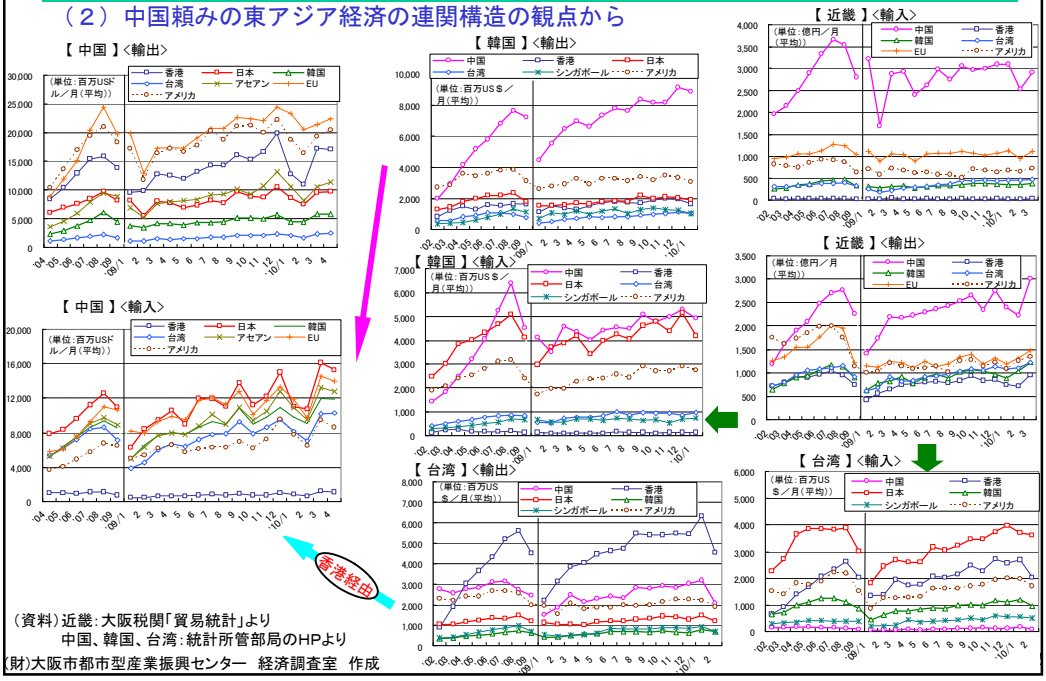
（1）企業規模による回復格差の観点から

⇒　４人以下の零細規模の業況回復が企業数的な持ち直しには不可欠！



■■4　不況脱却の足取りを検証する

（２）中国頼みの東アジア経済の連関構造の観点から



（資料）近畿：大阪税関「貿易統計」より
　　中国、韓国、台湾：統計所管部局のHPより

(財)大阪市都市型産業振興センター　経済調査室　作成